

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館

ニュース

第50号

2017.3.23

福井県立恐竜博物館

寄稿：「天然記念物 勝山恐竜化石群及び産地」への期待

- 目次 ▼寄稿：「天然記念物 勝山恐竜化石群及び産地」への期待 … 2～3
▼博物館トピックス「恐竜博物館この一年のあゆみ ～2016年度恐竜博物館の動き」… 4～6
▼2017年度特別展紹介 … 7
▼2017年4月～7月催し物案内 … 8



ヒプシロフォドン・フォクシイ

Hypsilophodon foxii

鳥盤目 鳥脚亜目 原始的鳥脚類
白垩紀前期
イギリス ホワイト島



「天然記念物 勝山恐竜化石群 及び産地」への期待

文化庁文化財部記念物課 柴田 伊 廣



恐竜の天然記念物指定は初めて

勝山市北谷町で産出した5体の恐竜化石と恐竜発掘露頭は、保存状態が良好で日本の恐竜時代の様子を現在に伝える貴重な標本とその産地として貴重なため、2017年2月9日に天然記念物に指定されました。福井県には、天然記念物として常神のソテツ(若狭町)、萬徳寺のヤマモミジ(小浜市)、本願清水イトヨ生息地、アラレガコ生息地(九頭竜川;大野市～福井市)、専福寺の大ケヤキ(大野市)、杉森神社のオハツキイチョウ(高浜町)、蒼島暖地性植物群落(小浜

市)が、名勝及び天然記念物として東尋坊(坂井市)が指定されています。九頭竜川や越前海岸、若狭湾の豊かな自然、そして寺社の象徴として大切にされてきた樹木など、これらは福井県の自然環境とその人々の思いを将来に伝えるものといえます。とはいえ、ほとんどは戦前に指定されたもので、福井県においては蒼島暖地性植物群落が1951年(昭和26年)に指定されて以降、実に66年ぶりの新指定となりました。

一方で、国指定天然記念物のうち

化石標本の指定は、エゾミカサリュウ(北海道三笠市;指定時は恐竜化石と考えられていたが後にモササウルスと判明)、歌津館崎の魚竜化石産地及び魚竜化石(宮城県南三陸町)、古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群(埼玉県秩父市、長瀬町、皆野町、小鹿野町、横瀬町)、そして本件の4件です。国指定天然記念物は、学術上貴重な動物、植物、地質鉱物として1024件が指定されており(2017年3月現在)、恐竜の指定は今回が事実上初めてとなります。

福井県の国指定天然記念物



常神のソテツ(若狭町)



萬徳寺のヤマモミジ(小浜市)



本願清水イトヨ生息地(大野市)



アラレガコ生息地(九頭竜川)



専福寺の大ケヤキ(大野市)



杉森神社のオハツキイチョウ(高浜町)



蒼島暖地性植物群落(小浜市)



東尋坊(坂井市)

快挙の背景

このような快挙に至った理由として、福井県勝山市で恐竜が多産することとはもちろん、地球科学や分析手法の進歩によって、日本全国での恐竜化石の分布状況や日本列島の成り立ちが、この数十年で良く分かってきたことが挙げられます。日本における恐竜化石の発見は1978年に岩手県に始まり、1990年代に入ると恐竜化石の報告が相次ぎました。それまで、恐竜時代に日本列島のほとんどが海面下にあったこと、現在の国土のほとんどが植生に覆われてい

ることなどから、日本における恐竜化石の産出は困難と考えられていました。しかしながら、プレートテクトニクス論が成熟し、さらに堆積環境を明らかにする研究によって、化石がよく含まれる地層について明らかになってきました。現在では、北海道から九州にかけて十数か所の恐竜を含む地層が知られています。

そうした学問の進歩を受け、福井県、石川県、富山県、岐阜県などに広がる手取層群と呼ばれる地層から、多くの恐竜化石が発見されました。

福井県勝山市での調査が開始されるきっかけとなったのは、1985年の石川県白山市桑島の天然記念物の指定地でもある手取川流域の珪化木産地（通称：化石壁）から、肉食恐竜の歯が発見されたことでした。そして、1989年に手取層群が分布する福井県勝山市北谷町で、福井県による調査が開始されました。現在では、5体の恐竜化石（2017年3月現在）が発見され、北谷町は全国的に最も多くの恐竜を産する化石産地となっています。

標本と産地の両方が指定された理由

指定された恐竜化石標本5体は、国の文化審議会において、肉食恐竜としては日本で初めて全身骨格が復元された標本であるフクイラプトル、恐竜多産地である勝山で初めて発見されたフクイサウルス、竜脚類で原始的なティタノサウルス形類の大型草食恐竜であるフクイティタン、アジア大陸東縁にも多くのイグアノドン類が生息していた重要な証拠とされているコシサウルス、頭骨を含む全体の約70%にあたる骨が見つかったフクイベナートルであり、それぞれ日本を代表する恐竜化石標

本であると評価されました。また、これらの保存状態が良好であること、標本を保存研究する施設が発掘地に隣接してあることなども高く評価されました。

さらに、勝山市北谷町に露出する手取層群北谷層（恐竜発掘露頭）についても、保存の価値があると評価されました。ここでは、約1億2千万年前にアジア大陸の東縁の蛇行河川や氾濫原であったことを示す地層が分布し、その地質学や古生物学の研究の膨大な蓄積があります。恐竜以外にも、ワニ類、カメ類、魚類などの

骨格化石が多数発見されており、特に顕著なのが800点を超えるカメ類化石です。また、鳥類や翼竜類の存在を示す足跡化石、蛇行河川の周囲に広大な森林があったこと示唆する多量の植物化石や花粉が発見されています。このような、豊かな生物群集の中で恐竜が生息していたことを現在に伝えてくれる希少な存在といえます。

したがって、恐竜化石だけでなくその産地の保存も必要であるとして、両者をともに一つの天然記念物とする方向で指定する運びとなりました。

天然記念物指定の後の期待

今後は、指定された天然記念物を確実に保存することはもちろん、その価値と保存する意義を地域住民と共有する必要があります。近年、天然記念物を取り巻く社会は厳しく、開発や他の動物の増加によって個体数を大きく減らしている場合もあります。また、指定後にほとんど対処を行わなかったために、露頭が劣化

し地層の分布が不明瞭になっているものもあります。法律や行政だけでは守れないという状況の中、全国各地で自然環境や地質地形の保全を目的とした事業が展開されています。福井県勝山市においては、2002年から「勝山市エコミュージアム推進計画」を策定し、さらに市やエコミュージアム協議会やNPOなどにより2009年

から日本ジオパークの認定を受けるなど、地域の文化や自然の遺産をまちづくりに活かす活動を推進しています。「勝山恐竜化石群及び産地」の指定をきっかけとして、これまで以上に地域住民と天然記念物を管理する博物館の活動が促進されることを期待します。

恐竜博物館この1年のあゆみ

2016年度 恐竜博物館の動き

「満足度UP!」の取り組み

2015年度の入館者数が93万人と過去最高を記録し、2016年度は、さらにおもてなしや利便性の向上を図り、多くの来館者をお迎えするため、「満足度UP!」対策に取り組みました。

主な取り組み

- 館内アナウンスを3か国語放送に(日本語、英語、中国語)(4月1日(金)から)
- 営業時間の拡大
開館時間:「9時～17時まで」を「8時30分～18時まで」に拡大
期間:4月29日(金・祝)～5月8日(日)
7月16日(土)～8月31日(水)
9月17日(土)～25日(日)
- 福井ブランドショップの開設(ゴールデンウィーク、夏休み、秋の行楽シーズン)
- 屋外臨時店舗の開設(〃)
- 屋外チケットブースの設置(夏休み、秋の行楽シーズン)
- カフェテラス「Dino」の開設(〃)
- 恐竜足跡の誘導サインの設置(7月8日(金)から)
- ダイノペッパー君の登場(〃)
- ダイノ・フラッグの掲揚(〃)
- 恐竜タペストリーの掲出(夏休み、秋の行楽シーズン)等



屋外臨時店舗



屋外チケットブース



ダイノペッパー君



ダイノ・フラッグ

恐竜博物館制作の映像資料が 文部科学大臣賞を受賞

恐竜博物館が2014年度に制作した映像資料「石になった木 珪化木の不思議」が、(公財)日本科学技術振興財団等が主催する「第57回科学技術映像祭」において、福井県では初めて文部科学大臣賞(研究開発・教育部門)を受賞しました。また、4月22日(金)に科学技術館(東京都千代田区)において、表彰式が行われました。



GWおよび夏休みの入館者数が 過去最高を記録

恐竜博物館のゴールデンウィーク(GW)期間中(4月29日(金・祝)～5月8日(日))の入館者数が82,373人となり、GW期間中としては初めて8万人を突破し、過去最高を記録しました。

また、夏休み期間中(7月21日(木)～8月31日(水))の入館者数が277,626人と、過去最高を記録するとともに、2年連続で25万人を突破するなど、2016年度も多くのお客様にお越しいただきました。



館内の様子(5月4日)

野外恐竜博物館の利用者数が 最高記録

開館3年目の野外恐竜博物館が、4月23日(土)に再開しました。11月3日(木・祝)の営業終了までの間に、約3万9千人の方が利用され、利用者数は昨年度より約5千人上回りました。2017年度は、4月29日(土・祝)から営業を開始する予定となっています。

期間 2016年4月23日(土)
～11月3日(木・祝)



恐竜化石発掘体験の様子(地元小学生による)

日本古生物学会年会・総会の開催

2016年6月24日(金)から26日(日)にかけて、福井県立大学と恐竜博物館で、日本古生物学会の2016年年会・総会が開催されました。

本学会では、かつやま恐竜の森の「どきどき恐竜発掘体験」において、岐阜市の小学生が、発掘調査現場の岩石から発見した化石が、国内初の恐竜時代の哺乳類の骨格化石であることが発表されました。また、当館の主任研究員が、恐竜博物館として初めて、同学会の学術賞を受賞しました。



小学生が発見した恐竜時代の哺乳類骨格化石

特別展の開催

2016年度特別展「恐竜の大移動」を開催しました。今回の特別展では、人気の高いティラノサウルスとトリケラトプスを中心に、1億年にわたってくりひろげた大移動と進化の様子を紹介するもので、米国や中国の博物館から借用した全50点の標本を展示しました。

入場者は、昨年度に続き2年連続で20万人を突破(77日目)し、最終入場者数は約237,603人と、昨年度を約1万3千人上回り、最高記録を更新しました。

期間 2016年7月8日(金)
～ 10月10日(月・祝)95日間



特別展「恐竜の大移動」

第四次恐竜化石発掘調査4年目を実施

勝山市北谷町の発掘現場において、8月1日(月)から9月10日(土)にかけて、第四次恐竜化石発掘調査を実施しました。同調査は、2013年からスタートし、今年度が4年目になります。

期間 2016年8月1日(月)
～ 9月10日(土)



通算入館者数800万人突破

2000年7月14日の開館以来の通算入館者数が、2016年10月9日(日)に800万人を突破し、記念セレモニーを開催しました。またこの日は、特別展の入場者数が過去最高記録を更新し、合同でセレモニーを開催しました。なお、800万人到達に要した期間は16年2か月と26日ですが、そのうち700万人から800万人までに要した日数は384日で、100万人到達の日数としては過去最短記録になりました。



800万人突破および特別展入場者数最高記録更新記念セレモニー

「ダイノ・ハロウィン」を初めて開催しました!!

ハロウィンにちなんだイベント「ダイノ・ハロウィン」を、初めて開催しました。仮装した職員やラプトルたちが先導して、仮装したお客様たちと一緒に館内のエントランスホールを練り歩く「ダイノ・

ハロウィンパレード」、あらかじめ仮装をしてきたお客様にお菓子をプレゼントする「ダイノ・マスカレード」、フクイサウルスやフクイラプトルなどの「恐竜シール」を顔などに貼って、フェイスペイントの仮装を楽しむ「ダイノ・フェイスペイント」で楽しんでいただきました。

実施日 10月22日(土)、23日(日)
29日(土)、30日(日)、31日(月)



ダイノ・ハロウィンパレード

「New Comer Collections セカンドステージ」はじめて! ぼくたち新参者です! パート2」開催!!

株式会社林原(岡山県岡山市)から購入した恐竜化石などの標本を、「FPDM Value Up Project」(バリューアッププロジェクト)と銘打ち、2015年度から順次公開していますが、今年度は、アロサウルスとヘスペロサウルスの全身骨格やトリケラトプスの頭骨など、実物化石8点を含む全14点の標本を2016年12月1日(木)から2017年1月22日(日)まで公開しました。

また、1月28日(土)から2月7日(火)にかけては、「恐竜の世界」ゾーンや「生命の歴史」ゾーンにおいて、新たに常設展示する、世界初公開のヘスペロサウルスや日本初公開のエドモントニア、ディメトロドンの実物全身骨格など、14点の標本の組上げ・展示作業を公開しました。



New Comer Collections

勝山恐竜化石群および産地が 国天然記念物に指定

福井県が平成元年から実施している恐竜化石発掘調査により発見され、恐竜博物館の研究により新種と認められた5種類の恐竜化石とその発掘現場が、2016年11月に国指定の天然記念物として答申され、2017年2月9日(木)に指定されました。

また、11月には、これを記念して恐竜化石発掘現場の特別観察ツアーおよび東特別館長による特別セミナーを開催しました。

特別観察ツアー実施日

11月23日(水・祝)、26日(土)、27日(日)



フクイラプトル(国天然記念物の一例)

模擬「ダイノ・ウェディング」を開催

(株)東急ハンズとのコラボレーションにより、11月24日(木・休館日)に模擬「ダイノ・ウェディング」を開催しました。2階から1階へのスロープを「バージンロード」に見立てて、新婦が父親のエスコートで挙式会場に進み、ティラノサウルスの全身骨格の前で、誓いの言葉や指輪の交換など本番さながらの恐竜前結婚式が挙行されました。挙式後は、カフェ&レストラン「Dino」で、フクイサウルスとフクイラプトルの全身骨格に見守られて模擬披露宴も開催されました。



模擬「ダイノ・ウェディング」

「恐竜たちとのクリスマス2016」 を開催

「ダイノ・クリスマス2016」のメインイベントを「恐竜たちとのクリスマス2016」と銘打ち、粘土のように手でこねると柔らかくなるロウで、恐竜やサンタクロースの形のキャンドルを作る「クリスマスキャンドルをつくろう!」と「フルーツとトーンチャイムのミニコンサート」を開催しました。

実施日

12月23日(金・祝)、

24日(土)、25日(日)

クリスマスキャンドルをつくろう! ▶



2017年1月2日(月・休)特別開館

「勝山恐竜化石群および産地」が国の天然記念物に指定されることを記念し、年末年始に帰省や旅行で福井県を訪れる方々のために、2017年1月2日(月・休)に、特別に開館しました。



正月の装いの「フクイサウルス」

ダイノ新年会を開催

新年をお祝いする恒例の「ダイノ新年会」を1月3日(火)に開催しました。恐竜スーパーボールを使った新春恐竜運だめし抽選会のほか、新春恐竜もちつき大会、恐竜獅子舞(協力:かつやま恐竜の森活性化連絡協議会)を行い、めでたい初春を御来館いただいた大勢の皆様と一緒に祝いました。また、2日(月・休)と3日(火)の2日間限定で、とり年生まれの387人の方には、フクイラプトルまたはプテラノドンの3Dカードをプレゼントしました。

ミュージアムショップ「DINO STORE」とカフェ&レストラン「Dino」では新春フェアを1月15日(日)まで実施しました。



新春恐竜運だめし抽選会

2017年春のPRイベントを開催

昨年に引き続き、東北楽天ゴールデンイーグルスのホーム球場において「恐竜アドベンチャー〜まなべる・あそべる恐竜博〜、イーグルスドームにふくいの恐竜が帰ってきた!」を開催します。

期間 2017年3月18日(土)

～4月16日(日)(25日間)

会場 仙台市宮城野区Kobo/パーク宮城



「恐竜の卵展」

会期
[予定]

2017 7/14 (FRI) ~ 10/15 (SUN)

[休館日: 9月13日(水)、27日(水)、10月11日(水)]

「~恐竜誕生に秘められた謎~」(仮題)

2017年度の特別展では、恐竜の卵や巣の化石と、親恐竜の骨格の展示を通して、恐竜がどうやって子孫を増やし繁栄していったのかを、産卵や営巣という視点から解き明かします。この特別展は、三つのゾーンに分かれ、これまであまり注目されていなかった恐竜の卵の秘密やその研究に迫り、進化の流れを追いながら恐竜の産卵、営巣について理解できるようになっています。

最初のゾーンでは、恐竜をはじめとする様々な硬い殻を持つ卵をとその研究を紹介し、様々な種類の恐竜やカメ類、ワニ類、鳥類はそれぞれ異なる卵の形や殻の微細な構造を持っています。たとえば、恐竜は種類によって丸い形や細長い形の卵を産みますが、殻の表面の模様や殻の厚さも一様ではありません。私たち研究者はこのような卵の特徴に注目し、恐竜の卵を分類したり、その特徴を生じさせた理由について考えたりします。実物の恐竜の卵化石が一堂に集まる展示は非常に珍しく、実際に恐竜の卵にどのような違いがあるのか観察できます。



様々な恐竜の卵 (写真提供: 浙江自然博物館)

二つ目のゾーンでは、卵と巣の変化を通して恐竜から鳥類への進化に迫ります。恐竜の中でも獣脚類の一部が鳥類に進化したことは、近年の研究ではっきりしてきました。この鳥類への進化は、骨格だけでなく巣や卵にも現れていたことがわかっています。このゾーンでは、獣脚類や鳥類とはかけ離れた、イグアノドンに代表される鳥脚類から始まり、原始的な獣脚類を経て、抱卵恐竜として有名なオヴィラプトル類や、鳥類に最も近い羽毛を持つ獣脚類

であるトロオドン類まで、鳥類の特徴的かつ工夫に満ちた卵や巣に向かって、徐々に恐竜の卵が変化していったことが観察できます。注目の展示として、世界初公開となるトルヴォサウルス・グルネイの骨格と巣(複製)が挙げられます。この恐竜はジュラ紀後期のポルトガルに生息し、巣と赤ちゃんの残った卵が見つかった最も原始的な獣脚類として非常に注目されました。



トルヴォサウルス・グルネイの復元図(上)と上顎骨(左下)と尾椎骨の一部(右下)。復元図の赤い部分が上顎骨と尾椎骨の位置 (Hendrickx & Mateus, 2014より引用)

また、北アメリカ産の体長10mに及ぶ近縁種、トルヴォサウルス・タネリの全身復元骨格も併せて展示します。その他にも、貴重なオヴィラプトル類の赤ちゃんが保存された卵化石や、親のオヴィラプトル類の腹腔に残された卵化石など、オヴィラプトル類における産卵や孵化に関する重要な化石が展示されます。そして、日本初公開となる、世界で唯一の大型オヴィラプトル類の赤ちゃん(通称ベビー・ルイー)の化石(複製)が、中国の河南省からやってきます。



ベビー・ルイーの化石。卵の殻(黒っぽい部分)とベビー・ルイーの骨格(赤枠で囲った部分)が見える。(写真提供: 河南省地質博物館)

また、最も鳥類に近い獣脚類として、白亜紀後期の北アメリカで見つかった羽毛恐竜トロオドンの全身復元骨格と生体復元模型、そして、アメリカ合衆国モンタナ州のロッキー博物館からこの恐竜の巣(複製)が登場します。最も産卵と営巣について研究が進んでいる恐竜の一つであるトロオドンについて、実際の化石と復元を見比べながら学ぶことができます。



トロオドンの巣化石 (写真提供: ロッキー博物館)

三つ目のゾーンでは、白亜紀中ごろの恐竜営巣地を復元します。中国南部に位置する浙江省や江西省では、大量の恐竜の卵化石が何箇所もの発掘現場から発見されており、この地域には鳥脚類やオヴィラプトル類、トロオドン類などの恐竜が集団営巣を行っていたと考えられています。ここでは同じ種類や違う種類の恐竜の巣が隣り合った珍しい化石や、巣の中に親恐竜、あるいは恐竜以外の動物の骨格が残った化石、巣の中に別の種類の卵が残る化石など、実際に見つかった化石を元に、恐竜たちがどのような環境で集団営巣を行っていたのかを、迫力のCG映像やイラストで再現します。

恐竜の繁栄は約2億3000万年前から6600万年前まで続き、恐竜の一部は鳥類として現在でも世界中に分布しています。恐竜の繁栄の理由は様々ですが、その一つとして効率的に子孫を残すための産卵や巣作りの工夫があったことは間違いありません。この特別展で、貴重な恐竜の卵や巣の化石を通して、恐竜の長い時代にわたる繁栄の理由を探ってみてください。(今井拓哉)

恐竜博物館カレッジの

ご案内

2017年4月～7月

※所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の場合は抽選となる場合があります。

※行事の日程、内容等につきましては、変更になることがあります。

※当館Webサイトの行事案内ページ (<https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

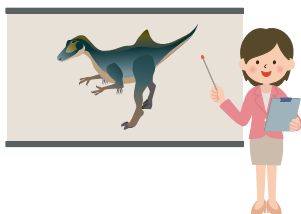
※10回参加いただければ「恐竜博物館カレッジ認定証」を発行いたします。(年度をまたいで可)。

特別展関連行事

博物館セミナー

場所/研修室

申込/電話、FAX、E-mailにて



■地球と生命の物語④

「卵のカラから学ぶ、恐竜から鳥への進化」

日時/7月30日(日) 13:00～14:30

内容/卵のカラの化石は、日本を含む世界各地で見つかっています。鳥を含む恐竜やワニ、カメ、ヤモリは、それぞれ特徴的な卵のカラを持っており、それらの動物の進化を反映していると考えられています。今回は、卵のカラの詳しい構造やその違いを、恐竜から鳥への進化という観点からお話しします。

講師/今井 拓哉

特別展ツアー

■「特別展の展示解説第1回」

内容/特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。

担当/今井 拓哉

場所/解説

対象/20名

申込/電話、FAX、E-mailにて

・第1回/ 7月17日(月・祝)
13:00～14:00

パブリックコース

博物館セミナー

地球と生命の物語

場所/研修室

申込/電話、FAX、E-mailにて

■① 恐竜が死に、そして埋まった場所

～タイでの発掘を例に～

日時/4月23日(日) 13:00～14:30

内容/恐竜は、どんなところに埋まって化石になったのでしょうか。タイとの共同調査で発掘される恐竜を中心に、北谷の発掘現場とも比較しながら、紹介します。

講師/湯川 弘一

■② 日本の化石が語るスッポン類の進化

日時/5月21日(日) 13:00～14:30

内容/福井の恐竜発掘現場からも化石がたくさん見つかるスッポン類。分岐分析や微細構造の研究から明らかになってきたスッポン類の進化や、当時の気候変動と分散の関係など、最新の研究成果についてやさしく解説します。

講師/園田 哲平

■③ 骨から読み解く恐竜の姿

日時/6月25日(日) 13:00～14:30

内容/骨には様々な形があります。それらには、多くの意味や意義があり、動物の生き方と深く関わっています。今の動物の骨の形を読み解くことで、生きていた頃の恐竜の姿をどのように復元できるのか解説します。

講師/河部 壮一郎

ジュニアコース

博物館自然教室

場所/実習室

対象/小学生以上(小学生は保護者も参加)
20名

申込/往復ハガキ、E-mailにて

■なぞの恐竜を研究しよう

日時/4月16日(日) 13:00～15:00

内容/博物館には恐竜の全身骨格が並んでいますが、発掘現場では体の一部しか見つからないことが多いです。部分的な標本から、どんな恐竜の、どの部分の骨なのか、一緒に考えてみましょう。博物館の展示の中にヒントがかくれています。

担当/関谷 透

■肉食獣の歯を調べよう

日時/6月18日(日) 13:00～15:00

内容/肉食の動物の歯には噛み切るため工夫と、その進化がみられます。プラスチックのレプリカをたくさん作り、クイズ形式でその特徴を紹介します。

担当/宮田 和周

■恐竜のくびを調べよう

日時/7月2日(日) 13:00～15:00

内容/くびの骨の仕組みが分かると、生きていた時の正しい姿勢やエサの食べ方などを推定することができます。恐竜だけでなく、首長竜や哺乳類などについても、展示室の全身骨格を観察してくらべてみましょう。

担当/園田 哲平

キッズコース

恐竜ふれあい教室

対象/4歳～小3の親子 15組

場所/実習室

申込/往復ハガキ、E-mailにて

■親子で化石のレプリカをつくろう!

日時/4月9日(日) 13:00～14:00

内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。

担当/千秋 利弘

■親子で化石のレプリカをつくろう!

日時/5月28日(日) 13:00～14:00

内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。

担当/千秋 利弘

■親子で恐竜模型をつくろう!

日時/7月23日(日) 13:00～15:30

内容/恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。

講師/恐竜造形家 荒木 一成 先生

申込/往復ハガキ、E-mailにて。

受付は6/23～30、抽選にて参加者に通知



ギャラリートーク開催

当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックして下さい。